

「竹林整備」 報告

2018/10/06



竹林整備

10月6日（土）、本学の敷地内にある松木日向緑地にて、竹林整備の活動を行いました。

松木日向緑地プログラムからは、3年目（リーダー）の学生が2人、2年目（サポーター）の学生が2人、1年目の学生が8人参加しました。

・竹林整備

まずは、ゴミ袋を緑地内に運び込みました。ゴミ袋と言っても中身はもちろんゴミではありません。これまでためていた落ち葉です。竹林に落ち葉を撒くことで、地面の温度や湿度を調節することができ、栄養分となります。この作業を行うことで、春には美味しい筍が出ます。雨で水を含んだ落ち葉はとても重かったのですが、みんなで緑地内の道を何往復もしながら運び込みました。今回運び込んだ落ち葉は、冬になる前に撒くそうです。

次に、連携団体のひなた緑地遊学会（以下、遊学会）の方を含めた4人1グループを作り、温室付近の竹林に入って、「竹の伐採」を行いました。プログラム参加1年目の学生の中には、今回初めて竹の伐採を行う学生もいたため、各グループで安全な竹の切り方を確認しました。自分の背丈の何倍もある竹を倒すのは簡単なことではありません。竹を倒した先に人がいれば、大きな事故につながります。リーダー・サポーターの学生や遊学会の方々は、安全面への配慮を強く意識して、1年目の学生に伐採方法を伝えていました。

竹を伐採した箇所には、陽の光がさんさんと降り注ぎ、地表近くの様々な植物を照らしていました。



学生が竹を伐採している様子

竹の伐採が終わると、次は、竹炭づくりの準備です。一度全員で温室に集まり、遊学会の北出さんから、竹炭づくりに使う窯の種類（レンガ製・ドラム缶製）や炭焼きの方法を教えてくださいました。その後、学生たちは、特殊な道具を使って竹を4つに割ったり、窯を掃除して、乾いた竹を詰めたりしました。

今回の活動では、近隣の小学生と一緒に炭焼きをし、竹炭を作ります。学生たちは、地域の方々との交流の機会をととても楽しみにしているようでした。

～参加した学生の感想～

・「竹を切るのは今回が初めてで、木を切るよりも楽に感じたが、手ノコですぐに切れてしまう分、倒れる瞬間に加えて、切り始める前の声掛けで周囲に注意を促すことが重要だと思った。また、遊学会の方々や先輩から竹の特徴やこの活動の目的を林の中で直接教えていただけたことに意味があると感じた」（1年目の学生）

・「斜面での竹の伐採のため自分自身の安全を考えつつも、竹が倒れる際のことを考えて周りにも注意を払う必要があり、竹を切る作業は難しいことを改めて感じました。キャンパス内にある自然を活用して他の学生や地域の方々との交流ができたので、改めて『この大学っておもしろい大学だな』と感じながら作業していました」（1年目の学生）

・「今日の竹やぶには、サクラの木、カシ系の木など、意外と色々な木が生えていて、非常に過密な環境であることが見られました。竹の密集度で本当に雰囲気が違うことも感じました」（1年目の学生）

・「回を重ねるごとに得る経験を活かし、積極的に参加していきたいです」（1年目の学生）

・「今日の活動で気になったのが、緑地を整備するのが当たり前のものでして今日の活動を始めてしまったこと。加藤先生が事前学習で伝えていた、この活動の背景にある里山の現状を確認する時間があつた方が良かったかもしれない。なぜこの活動をして、どういった貢献をしているか、ということもまとめの時間で考えるようにしたい」（3年目の学生）



大量の落ち葉を緑地内に運んでいます



伐採した竹の枝を落としています



先端に刃がついた棒で竹を4つに割ります



最後に全体で振り返りをしました